

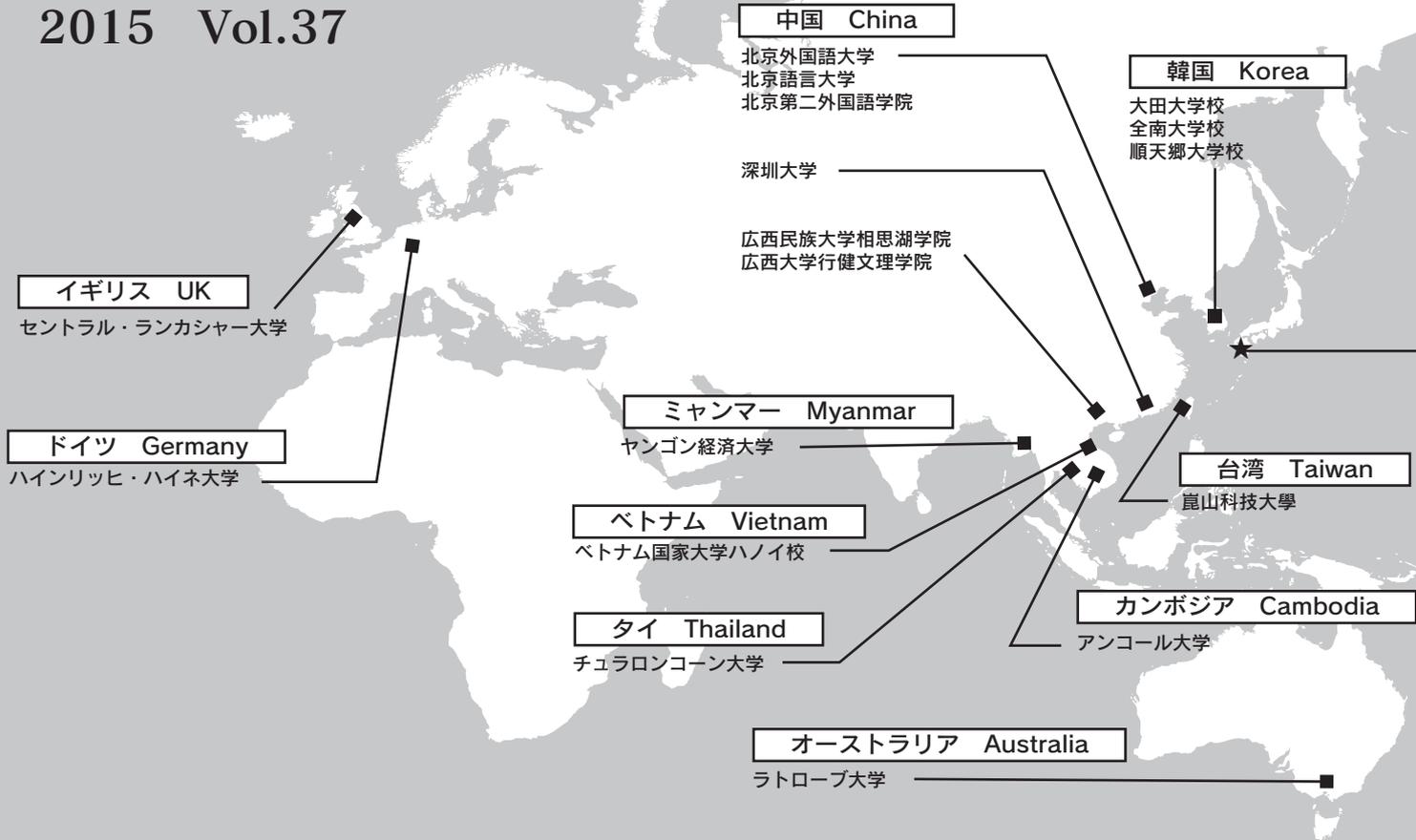


国際交流シター

2015 vol.37

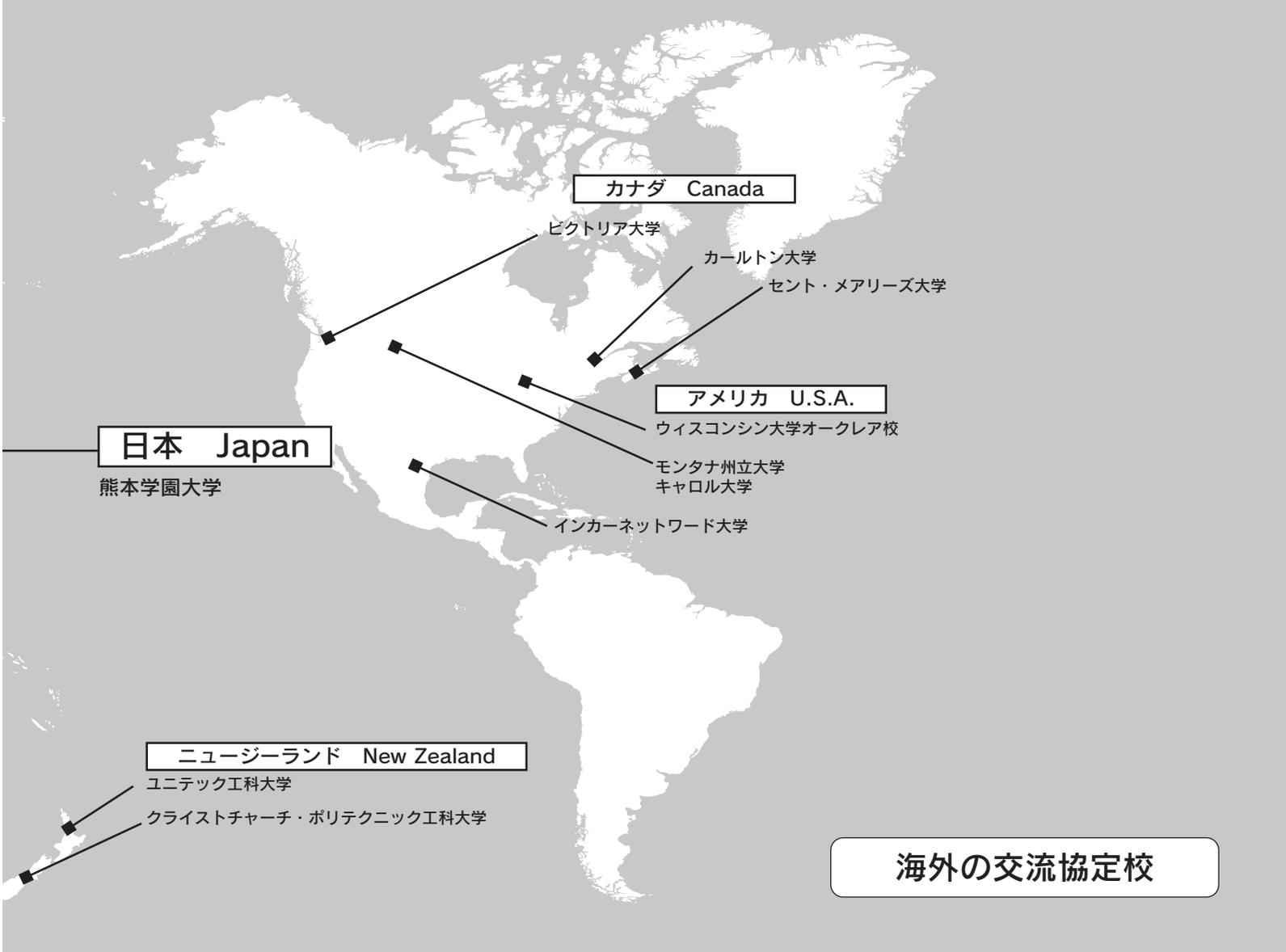
International Exchange Letter





目次

巻頭言	国際交流委員長 カーク・マスデン	2
TOPICS	トビタテ！留学 JAPAN 栗崎 龍太郎 (国際経済学科 4 年) 新協定校紹介 広西大学行健文理学院 (中国) 第 25 回外国人留学生弁論大会 新協定校紹介 全南大学校 (韓国) 大田大学校姉妹校提携 30 周年記念式典 学部間交換留学 平山 太郎 (第一部社会福祉学科 6 年) リーダーシップ・チャレンジ in サイパン	3
交換教員	関 丙 勲 (大田大学校) 孫 光 輝 (深圳大学) 黄 秋 生 (深圳大学)	7
留学体験記 in 熊本	Nicholas Jack (国際経済学科 3 年) James Henderson (国際経済学科 4 年) 李 松 熙 (英米学科 3 年) Daria Widawska (ホセ・列ティ・マゼム外学科 3 年) Nguyen Thi Hanh (英米学科 3 年) 李 靖 清 (国際経済学科 3 年)	10



交換・短期交換留学体験記

13

宮本佳奈 (英米学科 4年)

薄田実可 (英米学科 3年)

高橋七海 (ホスピタリティ・マネジメント学科 3年)

久保田花苗 (東アジア学科 4年)

藤本晴香 (東アジア学科 3年)

武田 聡 (国際経済学科 4年)

サマープログラムレポート ～イギリスで学んだこと～

16

DATA

平成 27 (2015) 年 海外往来

17

平成 27 (2015) 年度 研修団往来

海外への派遣学生数

平成 27 (2015) 年度 出身国・地域別外国人留学生数

Photo Gallery

20

DATA

平成 27 (2015) 年度 主な留学生参加行事

22



「グローバル人材」とは

国際交流委員長 **カーク・マステン**

近年、大学の役割として「グローバル人材の育成」がますます重要視されています。しかし、「グローバル人材」とはどのような人を指すのか、どう育てるべきかに関する意見は一様ではありません。英語の和訳であれば、英語での使用法を引き合いにして解説ができるでしょうが、実は「グローバル人材」は英語に訳すことがやや困難なほど日本的な表現なのです。もちろん、英語で「グローバル化していく世の中で効果的に活躍できる人」などのような説明ができますが、「グローバル人材」に相当する極め付けの英訳は存在しません。皮肉なことに「グローバル人材」を英語で表現するためには、その特徴の一つとされる高度なコミュニケーション力が必要となります。

今回、「グローバル人材」について考えるきっかけとなったのは昨年の8月に公開された本学の「国際化ビジョン」の作成です。ビジョンでは「地域に貢献し、世界で活躍できるグローバル人材を育成する大学」を目指すことを目標として掲げた上で、グローバル人材を「コミュニケーション能力、異文化を理解する力、様々な環境で直面する問題を解決するための積極性や柔軟性等を備え、国際社会に関する知識を持つ人材」と定義しています。この文章の作成に関わり、改めてこうした能力の汎用性に気づかされました。つまり、「グローバル人材」としての能力は海外でのビジネスなど、いわゆる国際的な仕事に必要なだけでなく、多くの職種で役に立つ能力なのです。

「コミュニケーション能力」を例に考えてみましょう。「グローバル人材」と「コミュニケーション」と言えば、語学力を連想する人が多いでしょう。しかし、使用言語は何であろうと、会話を通して

相手に対する興味と敬意を示すこと、自分の考えを筋道を立てて丁寧に説明すること、誤解等が起きても落ち着いて相互理解への糸口を探ることなど、一言で「コミュニケーション能力」と言ってもその中身は多岐にわたっています。海外で仕事をする場合には、柔軟に相手に合わせていくコミュニケーション能力が必要になることは当然ですが、とりわけ「国際的」な場でなくとも、意見や価値観などの違いを乗り越え共通理解を培うためのコミュニケーション能力が求められているのではないのでしょうか。

先日、海外留学から帰ってきた学生による「留学報告会」が行われました。そこで派遣先に関係なく、ほとんどの学生は留学先でディスカッションや発表等をしたことに触れました。外国語でディスカッションに参加し、発表を行ったことは外国語の高度な鍛錬になったことは間違いありませんが、同時に、日本の常識を前提にできない状況の中で、相互理解を構築しようとしてきたことはきっとより広い意味でのコミュニケーション能力を養う機会になったと思います。

「グローバル人材」の定義にある他の能力も、決して国際交流のスペシャリストだけのものではありません。自分と異なる他者を理解しようとする気持ちや能力、困難を乗り越えるための積極性や柔軟性、幅広い知識と教養などを持つことは、職種や活動地域に関係なく役に立つのです。そして、これらの能力を養うためには留学は極めて有効な手段だと確信しております。多くの学生に積極的に海外留学の機会を活用してもらい、グローバル人材として成長して欲しいと思います。



トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」は、2014 年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。

派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成されます。

日本代表プログラムには、現在、以下5つの募集コースがあります。

- ①「理系・複合・融合系人材コース」
- ②「新興国コース」
- ③「世界トップレベル大学等コース」
- ④「多様性人材コース」
- ⑤「地域人材コース」

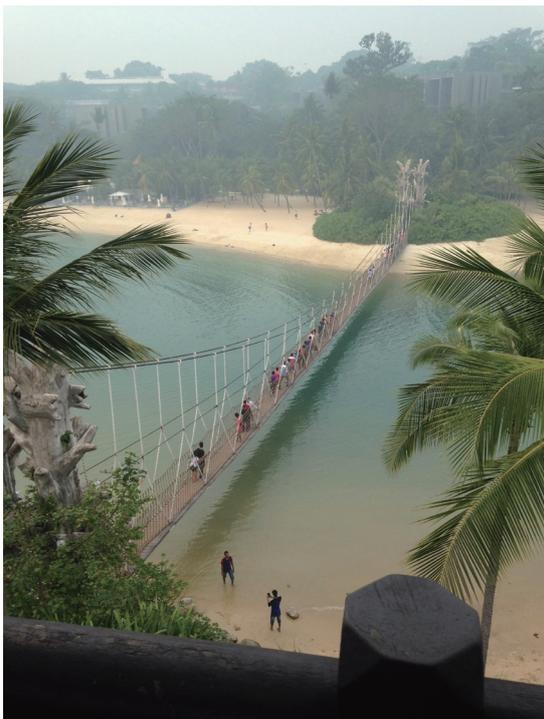
今回、平成 27 年度後期（第 3 期）の「地域人材コース」で採用された、本学経済学部の栗崎君がシンガポールに留学中です。

留学とは

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム「地域人材コース」を利用して留学

経済学部国際経済学科 4 年 くり さき りょう た ろう
栗 崎 龍 太 郎

私は、今年の 9 月中旬から Singapore へ「熊本県産米を世界に！！」という野望を持ち旅立ちました。Singapore での生活が始まり 2 か月が経過しました。念願だった留学生活が始まりこの 2 か月間色んな壁にぶつかりました。言葉、食、気候、生活習慣、もちろんホームシックになりました。しかし、それと引き換えに日本、そして熊本がいかに素晴らしい場所であるかということを確認し故郷に対して感謝の気持ちを持たれたことは私にとって大きなものであったと思います。そして、



私という人間の本当に弱い部分を目の当たりにすることにより何に対しても謙虚な気持ちになり学びが多くあるということ、苦しい時期もありましたが、逃げずにしっかりと向き合うことができました。それは成長に繋がる重要なポイントではないかと思います。また、留学を通して様々な国籍の人々との出会いがあります。その出会いを大切にしていきたいと思います。なぜなら私は人脈で人生が変わると思っているからです。仲間がいることでやりたいこと、やれることがより多くなるからです。

最後に海外で生活することは決して簡単なことではありません。ましてや楽しいことばかりではありません。私の好きな言葉に Everything happens for a reason（起こること全てに意味がある）とありますが、もし辛いことがあったらこの言葉思い出してみてください。きっと前向きになれるはずです。



（筆者は左）

新協定校紹介 広西大学行健文理学院（中国）

広西大学行健文理学院は、2002年に創設され、2004年に中国教育部（日本の文部科学省に相当）の認可を受け、全日制大学となりました。所在地は広西壮（チワン）族自治区南寧市西郷塘区です。現在、法・商学部、電気・情報学部、設計・工学部、管理学部、人文学部、財務会計学部、外国語学部の7学部、39専攻があります。学生数は、約10,600人。専任教員は、611名（うち教授は39名、副教授は153名、修士学位以上の学歴を有する教員数は447名）。

2015年4月に交流協定を締結し、2015年秋学期には、行健文理学院から第1期交換留学生14名を迎えました。



第25回外国人留学生弁論大会

6月の恒例行事である外国人留学生弁論大会は、本学に在籍する外国人留学生が、彼らの日本語能力の向上を図ると共に日本人との相互理解を深めることを目的として開催されます。今年は、5カ国6名の留学生がこの大会に出場しました。会場には、学生、教職員及び地元の皆さんが詰めかけてくださり、留学生たちの発表に聞き入りました。

最優秀賞に選ばれたのは、中国からの交換留学生曾慧雯さんによる発表でした。日本では写真に写る際に可愛いポーズが沢山あるとジェスチャーを交えながら発表し観客の心を魅了しました。また優秀賞に輝いたアメリカからの交換留学生横尾会美さんは、帰国する際には涙を流すかもしれませんが、それは自分にとって素敵な出会いがあり、別れが辛いから泣くのであると発表し、観客の涙を誘いました。



<後方左から>川田亮一商学部教授（審査員）、カーク・マステン国際交流委員長、太田丈太郎商学部教授（審査員）
<前方左から>横尾会美、レゴック・アイン、曾慧雯、エマ・バイニー、馬少杰、ジャナヴィ・ミジャギリ

審査結果

最優秀賞	経営学科 3年	ソウ ケイ フン 曾 慧 雯	（中国） かわいい日本にピースをしよう
優秀賞	英米学科 3年	レ ゴック アイン Le Ngoc Anh	（ベトナム） 環境についての話
	国際経済学科 2年	ヨコオ エミ 横尾 会美	（アメリカ） “アメリカンガール” から一言いわせてください
敢闘賞	経済学科 2年	ミジャギリ ジャナヴィ Mijagiri, Jahnvi	（アメリカ/インド） 人はみな同じ
オーディエンス賞	経営学科 3年	ソウ ケイ フン 曾 慧 雯	（中国） かわいい日本にピースをしよう



新協定校紹介 全南大学校（韓国）

全南（チョンナム）大学校は、光州広域市に本部を置く国立大学です。1952年に設置され、2006年に麗水大学校と統合。現在、光州キャンパスに、看護学部、経営学部、農業生命科学部、教育学部、芸術学部、人文学部、人類生態学部、工学部、社会科学部、獣医学部、薬学部、医学部、自然科学部、総合学部、法学部を有し、麗水キャンパスに工科学部、文化社会科学部、水産海洋学部を持っています。学生約35,000名、留学生約1,200名が在籍しています。

2015年4月に交流協定を締結しました。



大田大学校姉妹校提携30周年記念式典

熊本学園大学と大田大学校姉妹校提携30周年を記念し、平成27年12月11日13時より本学高橋守雄記念ホールにて記念式典、16時からは熊本ホテルキャッスルにて記念祝賀会を開催しました。大田大学校からは林用哲（イムヨンチョル）総長はじめ5名の訪問団をお迎えし、盛大に式典、祝賀会が行われました。記念式典において、金相烈（キムサンヨル）国語国文創作学科教授が「過去、現在、そして未来」の題で記念講演され、日本では「冬のソナタ」が大ヒットし、韓国においてもドラゴンボール、スラムダンクなどの日本漫画や、岩井俊二監督の映画「Love Letter」が大流行した事例を紹介され、日韓関係がギクシャクした時期だからこそ文化交流を通し、日韓関係の改善に繋げていく必要性を説かれ、観客から盛大な拍手が起きました。記念祝賀会には、本学教職員や卒業生、また志文会の方々も多く参加頂き、和やかな雰囲気でも進みました。林総長の冒頭の挨拶では「北古賀先生、岩野先生らの尽力により大田大学校と熊本学園大学の関係がこの30年間に強固なものとなりました。今後も40年、50年と未来永劫に姉妹関係が続いていくことを願っています」と述べられ、盛大な拍手が起きました。



学部間交換留学

社会福祉学部はドイツのハインリッヒ・ハイネ大学（デュッセルドルフ市）の人文学部と学部間交流協定を2014年3月に締結し、2015年4月から第1期の交換留学生を派遣しました。

社会福祉学部第一部社会福祉学科6年 平山太郎 ひらやま たらう

【2015年4月～2015年8月 ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学へ交換留学】

私の留学は、ドイツの赤ちゃんポストを見たい、最先端の福祉環境を生活の中で感じたいという思いからスタートし、諸先生方や様々な人のおかげで実現することが出来ました。

留学中、様々な壁にぶつかりました。しかし、反骨心を忘れず勉強、そして広い視野を持ち努力し続けることで乗り越えることが出来ました。その結果、最終目標であったハンブルクの赤ちゃんポストの見学とお話を伺うことが出来ました。

私は、様々な人の手助けの中で人種を超えた愛情を知ることが出来たと感じています。

これから、多くの人に感謝する気持ちを忘れず、この経験を福祉の職場で生かしていきたいと思います。



(筆者は後列一番右)

リーダーシップ・チャレンジ in サイパン

とある平日の流れ	
6:00	起床・身支度・朝食
7:45	実習校到着 日本人メダ-ミーティング
8:30	1限目 授業実践(福笑い)
9:30	2限目 他クラスの授業見学
10:30	3限目 担当教員と授業の話し合い
11:30	担当先生方と持ち寄ったの昼食
13:00	JAPAN FESTIVALの準備
16:30	解散、担当教員(ホストマザー)と帰宅
17:00	ホストファミリーとストリートマーケットで夕飯
19:00	ホストファミリーの友人宅訪問
20:30	帰宅
21:30	ルームメイト(日本人学生)と授業準備・談話
0:00	就寝

サイパンには日本との深い歴史があり、改めて戦争について考えサイパンの人々の思いに心を寄せることが大事だなと感じました。リーダーシップ研修を通してホストファミリーや学校の先生、生徒など多方面で現地の人々と交流することで、様々な価値観や考え、心の温かさを知ることができました。研修の詳細内容は全て現地到着後にわかります。ホームステイ先の家族構成や家庭環境もバラバラで電気の通らない家もありました。しかし、どんな家庭に滞在することになっても、必ずその家族の心の温かさや懐の深さを感じ、日本では経験することのない環境に身を置いて暮らすことで多くのことを学び感じることが出来ます。研修開始直後に、初対面のメンバーと1週間かけてチームの絆とリーダーシップを築きあげていくことは少し難しいと感じました。しかし、スタッフのアドバイスやサポートにより、私たちのチームは徐々にチームとして行動することの意味や改善すべき言動を考えるようになりました。厳しい環境に身を置いてこそわかる自分やメンバーの弱さ・強さを知ることができ、今後の自分の自信に繋がり自らも大きく成長できる貴重な経験ができたと思っています。研修後には、全ての学生が「参加してよかった」と感じています。

(外国語学部英米学科 前川彩乃(2015年卒業) 報告書より抜粋)



小心者の率直な話

大田大学校 ミン 関 ビョン 丙 フン 勳

【2015年3月～2016年2月 韓国・交換教員】

季節が三度も変わり、いつの間にか秋も終わりを告げようとしています。湿気に弱い私にとってこの季節はもっとも暮らしやすい時期ですが、それよりも、時の流れがあまりにも速く、帰国する日が刻々と迫ってくることに焦りさえ感じます。私にとって日本での生活は、まるで竜宮を訪れた浦島太郎のように、現実を離れて常世の国に来ているようなものです。それは、いろんな方々に助けられ、とても充実した日々を送っているという証拠なのでしょう。

でも、日本に来て初めの頃は、毎日のように繰り返されるインターネット新聞の、韓国人に対する、嫌悪感を煽るような記事に随分と悩まされました。しかし、時間はその悩みをもやわらげ、いまは冷静に受け止める余裕ができました。どんな時勢であれ、両国の交流に勤しんでいるたくさんの人々に、尊敬の念を抱くようになりました。

交換教員として何より優先すべきは、任された韓国語の授業を通して、少しでも学ぶことの楽しさを学生たちに感じてもらうことです。韓国では日本語や日本の文学を教えていた私にとって、いくら母語とはいえ、韓国語を教えることは容易いことではありません。授業の前日はいつも緊張で神経を尖らせていましたが、授業に入ると緊張はいつの間にかほころび、学生の前に大声で話す自分がいます。しかし、なかなか字母を覚えてくれない学生たちに失望感を覚えたり、これではやる気をなくしかねない、と思ったこともあります。それでも、韓国語で自己紹介ができれば教えた甲斐はある、と自分に言い聞かせながら続けていたら、気持ちはだんだん楽になっていきました。

言語の授業というのは、ただ文字や文章を覚えるだけでなく、文化や歴史、人々の価値観などを

も考慮に入れなければなりません。つまり、文化をまじえて教えることが、受講者の興味を引き出し、効率を高める方法なのです。だが、近年、K-POPを中心とした韓流の勢いはくじけ、むしろ「嫌韓」が売り物になっていると言われています。その分、韓国の文化や社会についていろいろ話すことには躊躇いがあり、学生たちの顔を窺いながら授業を進めていた時期もあります。多くの学生が無表情な顔を見せても、授業に興味を示し、耳を傾けてくれる学生がいたらそれが慰めになります。問題は、大多数が黙っていると、結局それを気にして、できる人も黙ってしまう雰囲気を作られてしまうことです。その雰囲気を断ち切るためにはやはり質問攻めが効果的です。

最近になって私は、韓国の社会現象や問題点を指摘する傍ら、グローバル化した現代社会において、個々人に求められることは何か、について学生たちに話しています。勿論、言語の習得が中心です。帰国するまで、受講者の一人一人が韓国という国に対して偏見を持たず、自分で考えることができるように、ありのままの姿を伝えていきたいと思います。授業を通して、一度は行ってみたいと思う国になれば、幸いです。





路面電車

深圳大学 ソン
孫 コウ
光 キ
輝

【2015年3月～2015年8月 中国・交換教員】

今年（平成27年）の三月から八月にかけて交換教員として熊本学園大学で勤務させていただきました。熊本は初めてですが、大変いい印象を与えてくれました。整然たる街づくり、新鮮で、安く美味しい刺身、飛行機、船、新幹線、在来線、路面電車など、どこへ行っても不自由のない交通の便利さ、また、親切で純朴な熊本の市民たち。半年の滞在ですが、美しい思い出がたくさん出来ました。その中で一番印象深いのは路面電車です。

今になっても、初めて路面電車に乗ったのを感じています。友人に教えてもらった通りに、住んでいるところから五分ほど歩いたら、目の前に広々とした道が現れました。その道の真ん中を走っているのは路面電車。紅、緑、オレンジ色、くまモンと、鮮やかに彩った車体が透き通った青空の下で、とても綺麗です。乗ってみたら、車内が清潔で、乗り心地がいいです。あれ以来、私は路面電車をよく利用するようになりました。

乗る回数が増えたら、幾つかのことに心が惹かれました。まず、車体ですが、時代感に満ちた古びたのもあれば、年寄りや車椅子の人のための、床が低い真新しいものもあります。二つ目は運転手さんの座席の後ろに掛けられた名札。紙の名札が



普通になった今日、木の名札は珍しいし、温もりが感じられ、何だか戦後の日本の汽車の中の光景を思い出すほど、一種の懐かしさがあります。三つ目は車内放送。電車が市役所前を通ると、必ずユニークな放送が流れます。それは熊本方言での放送です。始めは何を言ったかさっぱり分らなかったが、いつの間にか、聞き取れるようになりました。「最近、女性を狙った犯罪が多くなりました。夜遅く一人で歩いては危ないですよ」と、どうも警察署からの呼び掛けらしいです。聞き取れた瞬間、正直に言えば嬉しかったが、標準日本語での放送もあれば、ありがたいですが……。

帰国後、地下鉄に乗ると、思わず熊本の路面電車を思い出します。速くもないし遅くもないスピードで走っているおかげで、ゆっくりと、車窓外の景色を楽しむことができます。それは私の路面電車が気に入った一番の理由かもしれません。

末筆ながら、いろいろとお世話になった熊本学園大学の先生たち及び国際教育課の皆様にと、感謝の気持ちを表したいと思います。





熊本印象

深圳大学 コウ黄 シュウ秋 セイ生

【2015年9月～2016年2月 中国・交換教員】

光陰矢の如し。あっという間に私は交換教員として熊本に来て、もう2か月余り経ちました。熊本にいる時間はまだ短いですが、私に深い印象が残りました。私はしみじみ熊本の良さを感じ、なんとなく熊本が好きになりました。

熊本は東京、大阪ほどの大都市ではありませんが、私にとっては大都市のような雑踏と喧噪がなく、静かで和やかで、心の落ちつく魅力的な町です。

熊本の自然環境が美しいです。白川が絶えず静かに流れていて、人々に何かを囁いているように見えます。広々とした江津湖公園は、たまにジョギングや散策をする人を見かけるだけで人影が少なく、しっとりとした雰囲気です。時々アヒルが二、三羽連れて湖の中でゆったりとたわむれています。清らかな川の水際にサギが佇み、のんびりしています。遠く連なる阿蘇の山々の草木が青々として、茂っています。絶えず噴火している火口は恰も旅人にこの土地が長らく抑えられた内なるエネルギーを噴出したいという気持ちを告げているかのようです。

熊本の空気がきれいです。私は中国で比較的汚染が少ない都市—深圳から来ましたが、乗った車が熊本に入った途端に吸った空気がやはり深圳よりずっと新鮮だと感じました。

熊本の水もおいしいです。熊本に来たその日、さっそく熊本の方と食事をともにしましたが、食事中、水がおいしくて、つい何杯もがぶ飲みしました。それから、私は熊本の水で中国から持ってきたお茶を立てると一段とおいしくなることに気づきました。

熊本はまた文化的な町とも言えます。ここに私の尊敬する夏目漱石の旧居もあれば、日本で指折りの有名なお城として、毎日多くの観光客が訪れる歴史ある熊本城もあります。

私はまたこの町は祭りが多いということに気が付きました。例大祭、水あかり、お茶会など実にバラエティに富みます。水あかりの時、人々が自分の願い事や夢の書いてある明かりを綺麗に芝の上や水面においていました。夜中にちらほらきらめいていて、とても幻想的で、きれいで、ロマンチックだと思いました。また、例大祭の時の綺麗に飾った飾り馬、それから人々のリズム感の強い踊りと笑顔はとても印象的です。

熊本は「肥の国」と言われています。それはおそらく熊本は物産の豊富なところだからだろうと思います。熊本の食べ物は美味しく有名です。例えば、牛乳、馬肉、蜜柑、お米、ラーメン、赤鶏など実に枚挙に暇がないのです。

何故だか知りませんが、熊本はまた「火の国」とも言われています。それは、たぶん熊本の熱い天気、それから頻繁な火山活動と関係があるのでしょうか、

私に言わせれば、その名はまさに熊本人の火のような心の温かさと親切さを表わすものではないかと思えます。これは私の熊本学園大学に対する実感なのです。

熊本学園大学のキャンパスは大きくないですが、きれいです。赤レンガ風の建物がとても歴史感あるように見えます。紅葉の木は多くないですが、早くも赤くなって、キャンパスが美しく彩られています。銀杏並木が黄色に色づき始めて、日がさすとピカピカ輝いてとてもきれいです。熊本学園大学は熊本において有名で、国際色豊かな大学として、積極的に留学生や交換教員を受け入れています。私たちのような交換教員のために、快適で整った生活と研究環境を提供してくれています。国会図書館での資料調査に対する経済支援や論文投稿の機会提供など研究支援も充実しています。実に至れり尽くせり。

熊本学園大学でのこの2か月の間、国際教育課、総務課、経理課などの方々が温かく私を迎えてくれました。一人で外国から来た私は、心から温もりを感じました。そのおかげで熊本では楽しく、充実した生活を送ることができました。講義も研究も論文の作成もスムーズに進んできました。熊本学園大学の方々の温かい支援がなければ、わたしはこのような実りのある充実した生活があり得ないとつくづく感じています。この場を借りて、交換教員のチャンスを与えていただいた熊本学園大学の岩野茂道前理事長、目黒純一理事長、幸田亮一学長、そしてカーク・マステン国際交流委員長および国際教育課の皆さん、熊本学園大学の教職員の方々に心より厚くお礼を申し上げます。

半年の交換教員生活は残りが半分しかありません。私は残りの時間を大切に、できるだけ多くの先生方と交流し、皆様と一緒に楽しく過ごしていきたいと思えます。熊本での生活はきっと私の人生の中でいい思い出になると思います。そして帰国してから、私は熊本学園大学の皆様との交流を続け、多くの人に熊本のことを紹介し、「火の国」の温かい友情を伝え、中日両国の友好的な文化交流、深圳大学と熊本学園大学の友好交流のために努力していきたいと思えます。





大好きな熊本！

ニコラス ジャック
Nicholas Jack

【2014年9月～2015年8月
アメリカ・モンタナ州立大学からの交換留学生】

私は一年間日本の熊本に留学してきました。その一年間に、友達がたくさんできて、どんどん大好きになっていきました。熊本以外に旅行した時もいつも熊本のことを考えていました。熊本の人達といつも遊びたかったです。なんでまだ知り合っただけ数ヶ月経たないのにこんなにも友達のことが好きなのかと自分に聞きました。だけど答えは出なかったです。ただ、熊本の友達をみんな早く大好きになりました。家族になりました。

熊本は特に良い所だと思います。熊本県の中には、綺麗な場所がたくさんあります。阿蘇山も、日本一の石段も、登りました。岳に着いて、下を見たとき、熊本の美しさがすぐわかりました。熊本人もみんなとても優しいです。たまに知らない人に会って、喋りました。それから、その日で仲

よくなりました。

最後の一ヶ月間、帰国のことをいつも考えていました。でも、仲がよくなってきた友達といろいろ遊んで、気をそらしました。天草に釣りに行き、鹿児島にサーフィンに行き、美味しいものを食べるに毎日行きました。その友達と遊んだ時間を決して忘れません。



「友達と美味しいみかん集めて、食べて、最高！」
(筆者は前列右)

自分自身をわかるようになってきた！

ダリア ウィダスカ
Daria Widawska

【2014年9月～2015年8月
イギリス・セントラル・ランカシャー大学からの交換留学生】

去年九月から今年八月まで熊本学園大学に留学していたウィダスカ ダリアです。熊本に来た時に二回目の「カルチャーショック」がありました。初めてはイギリスに引っ越した時なんです。しかし、今度はとても大変でした。日本語も話せないし、誰も知らないし、「どうやって生き残るだろう」と思いながら熊本学園大学国際交流会館に住んでいました。でも、留学生の皆のおかげで少しずつ友達ができました。

私は日本の社会の中だけではなく、国際交流会館の中でも文化の衝突を経験しました。最初で自分の考え方はろくに柔軟ではなかったので、国際寮生活にも日本社会にも取まれません。寮にいたときに日本の礼儀作法か祖国の礼儀作法に従ったほうがよいでしょうか。留学生として、もちろん勉強のために日本の礼儀作法に従ったほうがいいんですが、様々な国の人々と一緒に住んでいると祖国の礼儀作法が忘れないようにおよび自分のアイデンティティを守らなければならないと思いました。その時、気づいた大切なことは「私のアイデンティティはなんだろう」と言うことでした。6年間イギリスに住んでいて、日本の文

化を勉強しているポーランドの出身として、もう自分のこと分からないようになってしまいました。ところが国際交流会館で友達ができてから自分自身に分かってきましたから、ようやく日本の礼儀作法を自分の人生に適應できるようになりました。

留学は勉強だけではなく、自分自身と自分の将来についてちゃんと考えられるようになった経験だと思っています。留学するときにどんなに腕前を持っている関係なく、留学生に一番大切でもらえる事は精神的なサポートでしょう。それに対して学園大学の皆様からもらえて本当に今でも感謝しています。

熊本学園大学で留学の機会をもらえて、国際教育課のスタッフ方からいろいろありがとうございます。もし、またチャンスがあったら、絶対にもう一度熊本に行きます！



「私の日本人側」

大事なことは親切だ

ジェームズ ヘンダーソン
James Henderson

【2014年9月～2015年8月

カナダ・セント・メアリーズ大学からの交換留学生】

こんにちは！私はジェームズです！出身はカナダのノバスコシア州ですが、去年熊本で住んでいました。そこで熊本学園大学に通いました。今までその一年間は私の人生の中に一番幸せな一年間です！

理由はいろいろなことですが、私にとって一番大切なことは人間関係。つまり、熊本人はいつも優しく親切なひとです。例えば、とある日、どこで私の自転車を駐車した場所忘れてしまいました！でも、町で偶然に二人の学園大の学生に会いました。私の問題を聞いたら、すぐに一緒にさがして。一時間あとぐらいで、私の自転車を見つけました！そして、その日から私たちは友達になりました！

熊本はいつもそういう場所です！みんなは私みたいに留学生に親切です。まちだけでなく、学校

でも親切な人がいました。例えば、学園大のイングリッシュラウンジはいつも楽しい所。そこで、知る人と知らない人に会いますと、一緒に勉強するとか、ゲームをするとか、話すとかなどです。知らなかった人に会いますと、すぐに友達になります！

熊本人はすごく優しいひとです。その人のおかげで私の新しい生活はすごく楽しかったです！すぐに帰りたい！



「友達は大事！」
(筆者は中央)

KGU – 国際的な大学、幸せな家族

グエン ティ ハイ
Nguyen Thi Hanh

【2014年4月～2015年3月

ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生】

私は日本に、KGU に留学して、良かったとも思っております。KGU に留学して、国際的な環境で勉強もでき、幸せな大家族で1年間過ごせました。

日本に留学する前に、京都大学に行くか、KGUに行くか非常に迷っていましたが、KGUに行くこ

とにしたのは今まで一番正しい決定だと私は思っています。KGU に行って、日本語、日本の文化だけではなく、アメリカ、カナダ、イギリスなど欧米の国々、中国、韓国、タイなどアジア系の国々の文化も接することができ、英語、中国語、韓国語を学ぶ機会もありました。そのため、頭に海外に行く意欲のない私は、他の国にも行ってみたいと思うようになりました。なお、KGU で、国際的な授業もあり、その授業で、各国の学生はみんな相談したり、意見を交換したりしていました。その授業を通して、それぞれの国の人の考えや、文化の違いもわかってきました。

国際的な大学でもあり KGU は幸せな大家族でもあります。KGU 大家族では、国際教育課のスタッフの方々、又寮の管理人の方々は留学生たちの父、母で、各国から来ている留学生たち、また KGU の学生たちは兄弟です。家族みんなはお互いに関心を持って、幸せな生活をすごしました。私は兄弟から、いろいろ勉強になりました。そのなかで、一番生活に良い影響をあたえるのは、他人を見る時、良くない点より、良い点に注視したほうが良いという中国人の妹から習った見方です。これは、私にとって、良い勉強でした。

以上のことで、もう一度留学の大学を選択させていただくと、私は絶対 KGU にします。



「クマモン可愛いでしょー♡」



留学体験記 in 熊本

私と方言

イ ソン ヒ
李 松 熙

[2014年4月～2015年3月]

韓国・大田大学校からの交換留学生]

熊本に来て初めて学んだ方言は「ダゴ」と「タイギヤ」でした。同じ留学生から教えてもらって新しい言語みたいなことが面白かったです。皆がよく使う「～けん」「～ばい」「～つたい」みたいに最後の部分を変えて使うのが私の地域の方言と似ていて親しい感じだったし、分かりやすかったです。

しかし、「あの皿なおして」と言われた時は困りました。友達が指した皿は「直す」必要はなかったし、「治す」ものでもなかったのでどうすれば良いのか分からなかったからです。私が知らない「なおす」がまたあるのかな、それとも、友達が間違ったのかなとずっと考えました。後、友達から「片付ける」の意味の方言だったことを教えてもらいましたが、教えてもらう時までは焦りました。

このように困ることが多かった時、標準語の日

本語も完璧でもないのに方言かよ！と言われたこともありましたが、方言を分かる前、元のことをしっかり分からないといけないと思って語彙や文法について勉強したし、よく日本人の先生や友達と話したので、生活の中で楽しく勉強する機会がたくさんできたと思います。

私にとって方言は「楽しい勉強の仕方」の一つでした。人によって受け入れ方は違いますが、勉強って意外と楽しくできる物だと思います。自分の勉強の仕方を探し、楽しく勉強しましょう。



「若かった私と美人たちの入学式」
(筆者は右から2番目)

楽しい留学生活

リ セイ セイ
李 靖 清

[2014年9月～2015年8月]

中国・広西民族大学相思湖学院からの交換留学生]

広西民族大学相思湖学院の李靖清です。以下は私の熊本学園大学で一年以来の留学生活に関する感想です。

熊本学園大学での一年間の学習生活は、楽しくとてもいい勉強になりました。学校では、文法や語彙の習得はもちろん、日本での暮らしと学習に役立つ知識もたくさん教えていただきました。先生達の授業は生き生きとして面白いです。いつも、知らないうちに私達の日本語は上達になりました。また、日本語の会話能力をより早く高めるため、先生達はなるべく同じ国の友達の間にも日本語で話すよう、いつも私達を励ましてくださっていました。それ以外にも、この学校では進学のために、大学院の先生を誘って、指導してくださいました。熊本学園大学の学生達は中国からタイ、ベトナム、韓国にかけて勉強しに来ています。国際的な環境の中で、自分と同じ国の学生だけではなく他の国の学生とも友達になることができます。

お互いの交流を深めながら、日本語レベルを高めるいいチャンスもあります。

生活上、事務所の先生もいつも優しく、クラスメートも親切です。バス旅行はとても好きです！阿蘇山へ行くことがあります。阿蘇山は高い、きれいだし。Masden先生とクラスメートと一緒に長崎に行くことがあります。ほんとに綺麗な夜景です。海風が吹いていた時、いい気持ちです。1年かんたくさん日本人の友達がいいます。時々パーティーします、カラオケします。

1年は早い過ぎました。よく熊本学園大学のことは思い出した。来年、ぜひ熊本学園大学に行くつもりです。



「バス旅行での写真」



一步を踏み出す

外国語学部英米学科4年 ^{みやもと} ^{かな}
宮本 佳奈

[2014年9月～2015年5月]

イギリス・セントラル・ランカシャー大学へ交換留学]

イギリス、セントラル・ランカシャー大学で9ヶ月を過ごしました。課題に追われ図書館に通ったこと、友人と朝まで語り明かしたこと、イギリスでの生活を思い返すとやはり懐かしく、愛おしく思います。留学を経て学んだことはたくさんある中で、最もお伝えしたいことは、「一步を踏み出す力」の大切さです。それこそが、留学生生活を充実したものにすると思います。

「一步を踏み出す力」とは挑戦し実行することです。例えばイギリスで、友人から誘われたパーティーに行くか、行かないか。新しい環境で外国人に囲まれるパーティーに行くことは想像するよりもずっと勇気があることかもしれません。その時に、「行く」という一步を踏み出すことには大きな意味があると感じます。もしかすると、それから先、多くの時間をともに過ごす相手とめぐり会えるかもしれません。そこでの出会い

が、次の出会いにも繋がります。一人の出会いからの繋がりは無限大です。つまり、「一步」からの可能性は無限大ということです。どんなに小さな一步だとしても、私はそれを大切にしたいと思い、留学生活を送りました。一つ一つの積み重ねにより、留学生活が最高だったと言える理由だと思います。

新たな挑戦の一步はひとそれぞれだと思いますが、もし「留学」を考えるなら、是非踏み出してほしいと心から思います。その一步が素敵な出会い、環境、未来を繋いでくれると信じています。



[Best Friends♡]

「初めて」から学んだこと

外国語学部英米学科3年 ^{すずき} ^だ ^み ^か
薄田 実可

[2015年2月～2015年12月]

ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学へ交換留学]



「語学学校卒業日」(筆者が一番左)

ここでの生活も残り三カ月ほどになりました。改めて振り返ってみると、この留学は私にとってなにもかも「初めて」だらけで、つらく悩んだ日々もありましたが、この経験が私を成長させてくれたと思います。今日は三つの「初めて」について述べたいと思います。

一つ目はクライストチャーチに一人で行ったという経験です。私は、今まで一人で旅行をしたことがありませんでした。国内ならまだしも、一人で海外に行くということで、不安と緊張で胸が張り裂けそうでした。また、一人というのがより孤独感を与え、空港や機内で何度も泣きました。しかし、空港や機

内でたくさんの人が私を助けてくれました。私が大きなキャリーケースを抱え、階段を降りていると、同い年の女の子たちが「大丈夫ですか」と声をかけてくれ、バックを持ってくったり、機内で外国人が声をかけてくれたり、みな初対面なのに本当に笑顔で優しく助けてくれて、「私も人にやさしくしないとイケない」と感じました。

二つ目は、他人の家に住むという経験です。私はアットホームなホームステイ生活を期待していたのですが、その期待は見事に裏切られました。決まりごとが多く、マザーは気分屋で、何度もホームステイ先を変えるか一人暮らしに変えようか考えました。しかし、衝突するたびにうまくいく方法を考え、行動していくうちに、ちょうどよい関わり方を見つけ出せました。この経験から私が学んだことは、相手の考えることを推測して、相手に合わせることでより良好な関係を築くことができるということです。この経験は社会できっと役に立つと思います。

最後は、外国人の友達を作ることです。学校が始まって、私は「どうやったら外国人の友達を作ることができるか」について考えました。しかし、どこにいても友達の作り方というのは同じようなものだと思います。大事なことはたとえつたない英語でも、話しかけることと相手に合わせることだと思いました。また、ここに来る前はよく異文化のことばかり考えていましたが、異文化というのはごく一部で、同じことで笑うし、怒ったり、悲しんだり、国は異なるけど、考えることや感じることは同じものが多いということがわかりました。言語、文化、育った環境は違うけど、同じ人間だなと思いました。

この留学生活を通して、様々な貴重な体験をしているように思います。残りの三カ月も悔いのない、有意義な留学生活にしたいと思います。



留学したから知れたこと

たか はし なな み
高橋七海
商学部第一部ホスピタリティ・マネジメント学科3年

【2015年2月～2015年6月
オーストラリア・ラトロープ大学へ短期交換留学】

私は、オーストラリアのメルボルンにあるラトロープ大学に留学しました。大学1年の頃からしてみたいと思っていた留学が、大学2年の秋にやっと叶いました。不安よりも期待・ワクワクの方が大きく、出発の日が待ちきれなかったのを覚えています。留学したからこそ分かったこと、感じたことはたくさんあります。英語力が成長したことはもちろん、留学は精神面に関してとても成長させてくれました。

私が留学して感じたこと、『それは、多くの人と出会うこと、「知る」ことの楽しさ』です。私は半



「footy (AUSで有名なスポーツ) 観戦」(筆者は左から2番目)

年間ずっと、語学学校だったので沢山の人と出会うことに関しては、とても優れた場所でした。日本を出ることは、私にとって、全く知らない文化・場所・人に飛び込むことでした。初めて見る景色にワクワクしたり、全く違う言語で会話することへの不安だったり、関わったことない宗教を目の当たりにしたり。その都度その都度、教えてもらって、助けられました。テレビでしか知ることの出来ない国や、会わなければ興味さえ持つことのなかった国、その国の人たちが周りからうける差別的な言葉や行動にさえ触れることは出来なかったし、知ることには出来ませんでした。それを知って、同じ気持ちになって悲しむこともありました。逆に本当のことを伝えていかなきゃという気持ちにもなりました。留学して出逢ったからこそ知れたこと、テレビでしか知ることの出来ない人たちに知ってもらいたいと思ったこと、相手の気持ちを知る機会を与えられたこと、知ってとても大事なことだと思いました。私は、このことを留学を通して学びました。人と出逢い知ることの大切さ、自分の中の常識が常識じゃなくなっていく面白さ、日本人としての誇り、さらに知りたいという欲求、やりたいことを見つけるきっかけになったこと、上手な日本語でまとめられないけれど、言えることは、留学をしてよかったということです。この経験を活かして、将来に向けてさらに貪欲に学んでいきたいです。そして、もっと世界に興味を持ち、いろいろなことに挑戦していきたいです。

「毎日新しいことに出会えた1年間」

くぼ たかなえ
久保田花苗
外国語学部東アジア学科4年

【2014年3月～2015年2月
韓国・大田大学校へ交換留学】

2月26日から2月22日までの約1年間、韓国の大田大学校に留学しました。高校生の頃、初めて韓国語に触れ、他の勉強にはない魅力を感じました。大学では韓国語を実際に現地で生活しながら韓国という国を肌で感じて、本当の生活会話を学びたいという気持ちで留学をしました。

1年間で韓国語が上達した1番の理由はやはり韓国人と話す事だと思いました。毎日のように韓国人とご飯を食べたり一緒に遊んだりする中で韓国語を聞くことが嫌になる日もありましたが、教科書には出てこない韓国語を知り、知らない単語が出てきたら辞書で探し、韓国人がよく使う表現を教えてもらい実際に使うことで、韓国語をたくさん覚えることが出来ました。また、韓国に住んでいけば身の回りに韓国語があふれているので1

日に何十個も知らない単語を自然と覚えていき、韓国のテレビ放送を見たり、映画を見に行ったりして楽しく聞き取りの練習にもなりました。留学をして得たものは韓国語会話力だけではありません。韓国で生活する事で韓国文化を学ぶ事ができ、帰国した今でも連絡を取り合うことが出来る韓国人の友達が出来ました。大学4年間の中でこの1年間の韓国留学は新鮮で刺激的な日々でした。本当に留学して良かったと思え、機会があればまた韓国で暮らしたいと思えます。



「1年間私のチューターをしてくれた友達です。お互いに教え合い、いつも支えてくれました。」(筆者は左)

日中友好の懸け橋の一つになった留学生活

外国語学部東アジア学科 3年 **藤本 晴香** ふじもと はるか

【2015年3月～2016年2月

中国・北京外国語大学へ交換留学】

私の北京での留学生活は、朝から夕方まで授業を受け、放課後は授業の予習や復習をしていたので、毎日勉強ばかりでした。そのような日々を送って約1か月後の2015年4月、私は大学の日本人留学生の歓迎会で、自身の留学生活に大きな変化を与える、日本人留学生団体“Pia-Smile”に出会いました。この団体は、中国の農村教育に関心を持つ留学生たちにボランティア活動という活躍の場を提供しています。スタッフの話を聞いているうちに団体の活動に強く興味を持ったので、私もスタッフになって活動することを決意しました。

スタッフになった後は、団体の理念に沿って、希望小学校（就学困難な子供たちに教育の機会を与える国際プロジェクトによって寄贈された小学校）を訪問し、小学生と交流するツアーを開催しました。ツアーの全てがスタッフによる手作りでした。日本の伝統的なおもちゃを使って交流し、日中に関係のあるクイズを作ってクイズ大会を行い、小学生の家

を訪ねて実際の農村の生活を目にしました。ツアーで印象に残っているものは子供たちの笑顔と「日本に対する印象が変わった」「日本人はとてもやさしい」という言葉です。私たちの活動をきっかけに、中国の将来を担う子供たちが日本を好きになってくれたことが本当に嬉しかったです。

私一人では日中友好の懸け橋となることは不可能でした。同じ志を持ったスタッフが一丸となって活動したからこそ、現地の中国人とツアー参加者を結ぶ懸け橋となることができました。この留学で日中友好の懸け橋の一つになることができ、留学生活が更に充実したものになりました。今後も日中友好につながる交流や活動に積極的に参加していきます。



【小学生の家を訪問した際、スタッフ・ツアー参加者・小学生とそのご家族】
（筆者は後列左から3番目）

ハノイで学んだこと

経済学部国際経済学科 4年 **武田 聡** たけだ さとる

【2015年2月～2016年2月

ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校に交換留学】



【国家大学ハノイ校の東洋言語学科の学部パーティーで現地の学生と】
（筆者は右から4番目）

私がベトナムに来る前は全くといっていいほどベトナム語が喋れなかった。多少の挨拶を日本語のカタカナ発音で知っている程度だった。ベトナムでの生活では必要最低限のベトナム語がしゃべれる必要がある。それでも身振り手振りでの自分の

意見を伝えようとすればなんとかなるものである。それに新しい言語に触れることは、常に新しい刺激に触れることができる。

また留学先の大学の学生は自分の未来を考えそれに向かって努力を惜しまないところがすばらしい。ベトナム人が他の国に行くことはビザの関係で非常に難しい。日本語を勉強している学生も日本に行ったことのない学生がほとんどである。それにもかかわらず日本人と日本語で会話することができる。そのうえ日本に行くチャンスを手に入れるために努力している。さらにベトナムは日本人と意識することが強い国であると思う。今、ベトナムには多くの日本の企業が進出しておりそれに伴いベトナムでの日本や日本語の需要は非常に高くなっている。

この留学中に一番強く感じたことは、何か新しいことにチャレンジする時にまったく知識がなくても飛び込んでみるのが大事だということだ。準備をしっかりと万全の状態では何かはじめることがベストではあると思う。しかしあまり考えずに飛び込んでみて、失敗したらその次に活かせばいいという考えもあるということだ。そのとき自分のできる努力を惜しまないことが大切だと今は思う。

サマープログラムレポート～イギリスで学んだこと～



サマープログラムとは？

英国にある唯一の協定校セントラル・ランカシャー大学で夏期休暇中の3週間を利用して英語を学ぶプログラムです。授業は月～金の午前9時～12時半、午後1時半～3時までの二部構成で、週ごとにコースが分かれています。授業外でのアクティビティも充実しており、スポーツやおしゃべりを楽しみながら交流を深めることができます。プログラム中には3回の日帰り旅行が組まれており、今年はマンチェスター、湖水地方、ブラックプールなどに行きました。



授業内容について ～金子真弓の場合～

- 1週目 [Football English]** 学園大学のみクラス。主にFootballのルールやポジション、UKのチームやマンチェスターユナイテッドについて学んだ。外でFootballを実際にすることができた。
- 2週目 [British Favourite]** 大分の人・サウジアラビア人・中国人・ドイツ人と一緒に受講。UKの有名な映画であるHarry Potter, Downton Abbey, Sherlockについて学んだ。毎週金曜日にプレゼンテーションを行った。
- 3週目 [Adrenaline English]** アドレナリンがでる時はどんな時か、活動を通して学んだ。
月曜日：Treasure Hunter 街中を回り、課題をクリアしていく。
火曜日：ボクササイズ。人生初の挑戦で全身汗びしょりになったが、とても楽しかった。
木曜日：卓球。ペアを組んでマシンのボール何球打てるかというもので、とても興奮した。



[日帰り Bus Trip] 自分が何の授業を受けるかによって行く場所が変わる。どの旅も今までにない体験を味わうことができ、良い経験になった。
(ホスピタリティ・マネジメント学科 金子 真弓)



宿舎について

オートロックや個室に鍵が付いているのは防犯上よかった。キッチンにはカウンターがあり、食材を置いたり食事がしやすく、ソファもあってルームメイトと談笑できる空間もあった。寮の近くにはスーパーがあり、食糧や生活用品などそこで揃えることができたし、駅やいろいろなショップ、ファーストフード店も歩いていける距離だったので不便に感じることはなかったが、夕方5時6時には閉店になるお店が多かった。
(経済学科 杉田 晴花)



Must-Bring Rankings

- #1 ハンガー/洗濯干し用ひも
- #2 持ち運び便利な上着
- #3 箸(料理用・自分用)
- #4 日本の調味料(醤油・みりん等)
- #5 運動用靴/服
- #6 スリッパ
- #7 ごはん(レンジ仕様)/ガイドブック
- #8 サングラス/日焼け止め/両具

サマープログラムを通して

このプログラムに参加して短い間だったが、すごくいい経験になり成長できたと思う。初めて授業を受けた日の帰り道、本当に1ヶ月もつのだらうか、と思ったのを今でも覚えている。しかし、時間が経つにつれて英語がだんだん聞き取れるようになり授業も楽しく受けられるようになった。他国の生徒とも仲良くなり、その国独特の英語も聴くことができ、通じない時はジェスチャーを使いコミュニケーション能力も英語力もあがったと思う。みんなと共に行動し暮らすことで自分より周りに気を配る大切さを学ぶことができた。この経験によって自分の将来をもう一度考え直すことができ、ぼんやりとはしているが夢を見つけることができた。日本に帰ってきてからも、またイギリスにもう一度行くために英語の勉強にいそんでいる。

(経済学科 渡辺 諒)





平成 27 (2015) 年 海外往来

	派遣	受入
1月	■派遣交換留学生の帰国 (中国・深圳大学 [1名]、韓国・大田大学校 [2名])	
2月	■派遣交換留学生の帰国 (中国・北京第二外国語学院 [1名]、韓国・大田大学校 [4名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]) ■派遣交換留学生・短期交換留学生の出発 (豪・ラトロープ大学 [3名]、ニュージーランド・ユニテック工科大学 [2名]、クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学 [1名]、韓国・大田大学校 [2名]) ■リーダーシップ・チャレンジ in サイパン [学生 1名] (2/21～2/28)	■受入れ交換留学生の帰国 (韓国・大田大学校 [4名]、中国・深圳大学 [1名]、北京第二外国語学院 [1名]) ■受入れ交換教員の帰国 (大田大学校・蔡聖山先生) (2/24) ■韓国・全南大学校研修団来学 (2/14)
3月	■派遣交換教員の帰国 (中国・深圳大学から李珊先生) (2/27) ■派遣交換留学生の出発 (中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、北京外国語大学 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]) ■リーダーシップ・チャレンジ in 韓国 [学生 7名] (3/17～3/22)	■受入れ交換教員の来熊 (大田大学校から関丙勲先生 (3/5)、深圳大学から孫光輝先生 (3/4)) ■受入れ交換留学生の帰国 (中国・深圳大学 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]) ■ペルーからの県費留学生の帰国 [1名] ■受入れ交換留学生の来熊 (韓国・大田大学校 [6名]、中国・深圳大学 [2名]、北京第二外国語学院 [1名]、ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校 [1名]、豪・ラトロープ大学 [1名]、米・インカーネットワーク大学 [1名])
4月	■派遣交換留学生の帰国 (カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]) ■学部派遣交換留学生の出発 (ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発 (カナダ・ビクトリア大学 [学生 5名]) (4/11)	
5月	■派遣交換留学生の帰国 (米・モンタナ州立大学 [3名]、インカーネットワーク大学 [1名])	
6月	■派遣交換留学生の帰国 (英・セントラル・ランカシャー大学 [3名])	
7月	■派遣短期交換留学生の帰国 (豪・ラトロープ大学 [1名]、ニュージーランド・ユニテック工科大学 [1名]) ■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習出発 (ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学) (7/29)	■中国・上海市文綺中学校修学旅行訪問団来学 [生徒 40名、教員 4名] (7/6) ■台湾・崑山科技大學訪問団来学 [学生 3名、引率 1名] (7/29) ■受入れ交換留学生の帰国 (米・インカーネットワーク大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、豪・ラトロープ大学 [1名]、中国・広西民族大学相思湖学院 [1名])
8月	■派遣短期交換留学生の帰国 (豪・ラトロープ大学 [1名]) ■学部派遣交換留学生の帰国 (ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]) ■派遣交換留学生の出発 (米・モンタナ州立大学 [3名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [2名]) ■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習帰国 (ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学) (8/19)	■受入れ交換留学生の帰国 (米・モンタナ州立大学 [1名]、米・インカーネットワーク大学 [1名]、カナダ・セント・メアリーズ大学 [2名]、タイ・チュラロンコン大学 [1名]、台湾・崑山科技大學 [1名]、中国・広西民族大学相思湖学院 [3名]) ■受入れ交換教員の離熊 (深圳大学・孫光輝先生) (8/24)
9月	■派遣交換留学生の出発 (英・セントラル・ランカシャー大学 [2名]、台湾・崑山科技大學 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ帰国 (カナダ・ビクトリア大学 [学生 5名]) (9/6) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ出発 (カナダ・ビクトリア大学 [7名]) (9/12) ■日本語教員養成課程・日本語教育演習・海外実習 (台湾・国立政治大学 [学生 5名]) (9/30～10/11)	■ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学担当者来学 [1名] (9/7) ■受入れ交換留学生の来熊 (カナダ・セント・メアリーズ大学 [2名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、台湾・崑山科技大學 [1名]、中国・広西民族大学行健文理学院 [14名]) ■学部受入れ交換留学生の来熊 (ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]) ■受入れ交換教員の来熊 (深圳大学から黄秋生先生) (9/7)
10月		■モンタナ州立大学訪問団来学 [5名] (10/13)
11月		■中国・大連工業大学訪問団来学 [5名] (11/2)
12月	■派遣交換留学生の帰国 (ニュージーランド・クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学 [1名]) ■外国語学部長期海外研修・海外インターンシップ帰国 (カナダ・ビクトリア大学 [2名])	■韓国・大田大学校総長一行来学 [5名] (12/10～12/13)



平成 27(2015) 年度 研修団往来

受入	研修団名	研修期間	期間	団員数
	順天郷大学校学生訪問団	11月26日(木)～11月28日(土)	2日間	学生43名、引率5名、通訳2名

派遣	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
	外国語学部英米海外研修	7月21日(火)～8月19日(水)	30日間	米・ベセル大学	11名
	サマープログラム	8月6日(木)～8月31日(月)	26日間	セントラル・ランカシャー大学	24名
	外国語学部中国(台湾)海外研修	8月9日(日)～9月5日(土)	28日間	國立台湾師範大學	8名
	経済学部 INTERNATIONAL INTERNSHIP	8月10日(月)～8月24日(月)	15日間	ミャンマー・カンボジア	学生7名 引率2名
	経済学部国際研修	9月4日(金)～9月15日(火)	12日間	ニューヨーク・ワシントンDC	16名

< 海外への派遣学生数 >

	派遣先大学名	平成 27 (2015) 年度			平成 26 (2014) 年度まで				
		交換	短期交換	サマーP*2	交換	短期交換	サマーP*2	HSP*1	短期派遣
アメリカ	モンタナ州立大学	3			68				25
	モンタナ大学				21				
	キャロル大学				29				22
	ロッキーマウンテン大学								4
	インターネットワード大学				32				
	アワーレティオブザレイク大学(熊本市交流事業)				7				
カナダ	ウィスコンシン大学オークレア校				10	6			
	セント・メアリーズ大学	2			27	2			
イギリス	カールトン大学				10				
	リバプールジョンモーズ大学				41	11			91
	アルスター大学				8				19
フランス	セントラル・ランカシャー大学	2		24	3		30		
	リヨン商科大学				2				
ドイツ	ボワチエ大学				1				
	ラインランド・プファルツ州立経済大学								16
オーストラリア	ラトロープ大学	1	2		28	2		124	
ニュージーランド	ユニテック工科大学	1	1		26	7		103	14
	クライストチャーチポリテクニク工科大学	1							
韓国	大田大学校	2			79				
中国語圏	深圳大学	2			53				
	中国人民大学				8				
	北京外国語大学	1			11				
	北京語言大学				11				
	北京第二外国語学院	1			9				
	広西師範大学(熊本市交流事業)				9				
ベトナム	崑山科技大學	1			1				
タイ	ベトナム国家大学ハノイ校	1			7				
	チュラロンコン大学				4				
	合計	18	3	24	505	28	30	227	191

*1: 短期語学ホームステイプログラム
*2: サマープログラム

※注 1 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学
 ※注 2 短期派遣留学(2ヶ月派遣)は、平成18年度をもって終了
 ※注 3 短期交換留学(1学期派遣)は平成20年度開始
 ※注 4 短期語学ホームステイプログラムは平成24年度以降実施なし
 ※注 5 サマープログラム(1ヶ月派遣)は平成25年度開始



平成 27(2015) 年度 出身国・地域別外国人留学生数

春学期

(5月1日現在)

国 籍 (国・地域名)	学 部 学 生					研 究 生			大 学 院 生					交 換 留 学 生	合 計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	1	2 以上	博1	博2	博3 以上			計
アメリカ															2	2
カナダ															2	2
韓 国												1		1	6	7
中 国	1	6	9	11	27				3	4				7	7	41
台 湾										1				1	1	2
タ イ															1	1
ベトナム															1	1
オーストラリア															1	1
ポーランド															1	1
合 計	1	6	9	11	27	0	0	0	3	5	0	1	0	9	22	58

[9カ国・地域 58名]

秋学期

(10月1日現在)

国 籍 (国・地域名)	学 部 学 生					研 究 生			大 学 院 生					交 換 留 学 生	合 計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	1	2 以上	博1	博2	博3 以上			計
イギリス															1	1
カナダ															2	2
ド イ ツ															1	1
韓 国												1		1	6	7
中 国	1	6	9	10	26				3	4				7	17	50
台 湾										1				1	1	2
ベトナム															1	1
合 計	1	6	9	10	26	0	0	0	3	5	0	1	0	9	29	64

[7カ国・地域 64名]

- ※ 「留学」の在留資格を持っている学生のみ。
- ※ 休学者も含む。



PHOTO GALLERY





平成 27 (2015) 年度 主な留学生参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
第 28 回留学生交流会	玉名ロータリーアクトクラブ	チーム対決や玉名についてのクイズを通しての交流会	平成27年 4月12日(日)
春の新生歓迎バス旅行	熊本学園大学国際教育課	高千穂峡・天岩戸神社・日之影温泉駅	4月18日(土)
第 53 回 熊本県日韓親善協会交流会	熊本県日韓親善協会	熊本県内大学留学生への激励と交流	4月22日(水)
交換留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新交換留学生の歓迎会	4月25日(土)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	5月24日(日)
第 25 回 外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	6月13日(土)
ボランティアガイド養成講座	熊本留学生交流推進会議	くまもとを知る講義と実地研修	7月11日(土) 7月12日(日)
外国人留学生のための 就職フェア	大学コンソーシアム熊本	外国人留学生の採用を考える企業を交えての就職説明会	7月19日(日)
交換留学生送別会	熊本学園大学 国際教育課	帰国する交換留学生の送別会	7月25日(土)
第 38 回 火の国祭りおてもやん総踊り	大学コンソーシアム熊本	コンソ熊本・留学生チームとして参加	8月 8日(土)
第 66 回 建国記念のお祝い国慶節	熊本華僑華人総会	国慶節を祝う会	9月27日(日)
交換留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新交換留学生の歓迎会	10月 3日(土)
小学生の五ヶ瀬紹介	熊本学園大学総務課	五ヶ瀬から来た小学生と交流	10月 9日(金)
託麻原小学校国際交流クラブ	託麻原小学校	託麻原小学 5,6 年生との国際交流	10月15日(木)
熊本学園大学付属中学校 総合学習	熊本学園大学付属中学校	中学 3 年生の総合学習の授業で留学についての講義と交流	10月17日(土)
ウェルカムパーティー	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会	10月18日(日)
体育祭	熊本学園大学体育常任委員会	体育祭へ参加	10月24日(土)
託麻祭	熊本学園大学第一部学生自治会	学園祭	11月 1日(日) ～11月 3日(火)
秋の新生歓迎バス旅行	熊本学園大学国際教育課	通潤橋・弊立神宮・通潤酒造	11月 4日(水)
市内大学留学生ボランティアとの連携	熊本森都心プラザ	ゲーム・イベント会場で、母国語による挨拶とイベントの手伝い	11月21日(土)
WAの心で～お・も・て・な・し～	大学コンソーシアム熊本	熊本の観光地見学 日本の文化体験	11月28日(土) 11月29日(日)
留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	第一部：「留学生と語ろう！ ～世界における大人とは？～」をテーマに発表 第二部：餅つき	12月 5日(土)
Xmas の工芸品づくり	くまもと工芸会館	熊本の伝統的工芸品である「肥後てまり」の手作り体験	12月 6日(日)
留学生のための就活応援 ワークショップ	大学コンソーシアム熊本	外国人留学生向けの就職講座	12月13日(日)
託麻原小学校総合学習	託麻原小学校	託麻原小学 1,2,3 年生との国際交流	12月21日(月)
第 41 回学長杯争奪全学生 駅伝大会	熊本学園大学第一部学生自治体育 常任委員会	留学生チーム参加	平成28年 1月 9日(土)
成人式	日本現代和装研究会	着物の着付けと式典出席	1月11日(月)
筆であそぼう！楽しい書道2	熊本市中央公民館 市民企画講座	書道体験	1月17日(日)
交換留学生送別会	熊本学園大学国際教育課	帰国する交換留学生の送別会	1月23日(土)
能楽ワークショップ	熊本ユネスコ協会	能楽体験	1月31日(日)
第 34 回熊本春節祝賀会	熊本県日中協会	中国人留学生と協会員との交流	2月17日(水)

INTERNATIONAL EXCHANGE PROGRAMS COMMITTEE MEMBERS

国際交流委員会メンバー

(2015年4月～2016年3月)

委員長 カーク・マスデン

商学部 太田 丈太郎 真島 理恵

経済学部 中敷領 孝能 平松 燈

外国語学部 米岡 ジュリ 小笠原 淳

社会福祉学部 橋本 公雄 仁科 伸子

大学院 末永 英男 喬 晋 建

国際教育課 喜佐田 智子 大澤 孝

OFFICE STAFF MEMBERS

国際教育課スタッフ

(2015年4月～)

課長 喜佐田 智子

係長 大澤 孝

北原 かおり

大村 美沙季

榎木 麻理

高井 智代

国際交流会館 前田 清明

熊本学園大学 国際交流レター 2015 vol.37
編集・発行 熊本学園大学国際教育課

平成28(2016)年2月発行



熊本学園大学

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL 096-364-5161(代)

FAX 096-372-4112

[ホームページ] <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko>

[facebook] <https://www.facebook.com/kumagakukokko>